

### 伊勢崎ユネスコ協会

伊勢崎ユネスコの後半行事である研修は、私達が暮らしている周辺地域を先人が築いてきた伝統、生活、地域文化を学び再発見し心豊かな思いを育んで行く事を進めるべく実施しています。

平成二十七年十月、伊勢崎市周辺の絹遺産研修会を実施。明治二十年田島弥平氏宅内に美以教会島村講義所が建てられたが手狭となり明治三十九年に境新野に二階建ての集会所、昭和三十四年に礼拝堂、講壇を拡張している。渋沢栄一、生家、記念館、尾高惇忠宅(富岡製糸場初代工場長)。誠之堂は大正五年渋沢栄一の喜寿を記念し第一銀行の行員の出資により建築されたものである。旧煉瓦製造施設(日本煉瓦製造株式会社)は明治政府が欧米列強に対抗すべく、明治十九年に臨時建築局を設置し日比谷周辺に近代建築による官庁街を建設しようとして、渋沢栄一に大量生産が可能な機械式レンガ工場の設立を要請し造られた建物である。明治二十一年ドイツ人フリードリッヒ・ホフマン考案の最新式ホフマン式輪窯を採用、最盛期には六基の窯が稼働、現在一基残っている。

伊勢崎ユネスコは、身近にある史跡・遺跡等を再認識し未来に繋げたいと思っています。平成二十八年度の目標として会員の増強を計るべく活動をして行く方向を目指します。当ユネスコも高齢化しており、会活動にも支障が出始めていま

す。近年の傾向として入会の方が定年後に入ってきています。その為に実質活動年数が限られてきます。対策として会員を増やし行事に係わる人を分散化して個々の負担を軽減し、課せられた任務を遂行出来る様にして行く事です。一月以降の行事は子ども会育成会主催の上毛かるた大会への協力、各種団体への協力助成、当ユネスコ行事の見直し、推進、会員が自己啓発出来る環境づくり、ユネスコ会員になつて良かった、楽しみが増した等の達成感を持つる事を推し進め、伊勢崎ユネスコに出来る事を目指したいと思っております。県ユネスコ協会の皆様にも益々の御指導を頂きたく宜敷くお願い致します。



尾高惇忠生家

### 高崎ユネスコ協会

開かれた協会を目指して

会長 樋口 克己

高崎ユネスコ協会では「つなげよう

深めよう 広げよう ユネスコの心」をスローガンに様々な活動を進めております。この度は「広げよう」という観点から本協会の活動を紹介します。  
**ホームページ開設について**  
「広げよう」という試みの一つとして、本協会は広報部を中心にホームページ開設の準備をしてきましたが、平成二十七年十月に開設の運びとなりました。本協会の活動内容等を会員だけでなく市民や他の多くの皆様にお知らせしています。県内の皆様にも閲覧いただけたら幸いです。

- 〈内容紹介〉  
○トップページ……活動方針、活動内容、他  
○プロフィール……協会組織、協会年譜  
○活動報告……行事の事後報告、他  
○ご案内……行事の事前案内、会員募集  
〈閲覧手順〉  
ネットの接続↓Yahoo!JAPAN  
Nクリック↓検索らんに高崎ユネスコ協会と打ち込む

日ユ協、群馬県ユ連の他、本協会が後援している高崎市少年少女合唱団や高崎スポーツクラブのHPともリンクしています。また、世界記憶遺産登録を目指す上野三碑の紹介等もしています。

**普及活動を通じて**  
「広げよう」という活動の一つとして本協会の普及部が中核となりユネスコ活動の普及と会員拡充を目指す活動を行っています。会員数については、近年まで減少傾向にあり、一時は二三〇名程度ま

で会員数が落ち込みました。しかし、ここ数年、役員理事が一丸となって新会員募集活動を推進したところ、平成二十七年度は会員数三三六名となりました。この普及活動の成果は会員の増加だけでなく市民のユネスコへの関心を高めることにも通じたように感じられます。この活動を進める中で協会組織の活性化も図られたのではないかと思います。

### 富岡ユネスコ協会

会長 高橋總一郎

本協会では、今後とも広報啓発及び普及活動を通してユネスコ活動への理解を深め、仲間の輪を広げてまいりたいと思っております。

一昨年は「富岡製糸場と絹産業遺産群」がユネスコ世界遺産登録・国宝に正式登録されました。同時にその瞬間に立ち会えたことは、会員にとって大変喜ばしく、感動した一年でも有りました。

さて、今年度はユネスコ活動普及啓発作文応募では、新たな取り組みとして小中学校の協力により夏休みの課題として取り組んでいただきました。

寺子屋運動(書き損じハガキ回収)も例年同様三千枚を目標に実施させて頂く予定ですので協力お願い申し上げます。

少年少女合唱団においては、九名の新団員が加入し秋の文化祭、三月五日開催予定の定期演奏会に向け日々練習に励んでおります。